

3. Rwenjeru小学校と地域社会へのWASHイニシアティブ(ウガンダ)

- 実施団体: Spero Child International (#029)
- 実施地: ウガンダ ムバララ県ルバーヤ副郡ルウェンジェル行政教区
- プロジェクト予算: 3,981ドル(JWFファンド1,500ドル、団体1,681ドル、受益者800ドル)
予算: 3,500ドル(JWFファンド1,500ドル、団体1,200ドル、受益者800ドル)
- 受益者数: 450人(男性25人、女性25人、子ども400人うち小学生342人)
- 実施地の水問題:

Rwenjeru小学校と周辺地域における最大の課題は、安全で清潔な水源と衛生設備不足だった。学校および地域住民は、家畜が汚染した可能性がある露出湧水水源に依存していたので、特に子どもたちは水系感染症にかかりやすかった。また、学校には適切なトイレが整備されていなかった。

【実施前】



Rwenjeru小学校校舎と破損した貯水槽



左手付近にヒビあり。本体に穴を空け、雨樋からの横走り管を間に合わせ接続している。



近所の池まで歩いて家畜と同じ水源の水を汲む生徒たち。

- 主な活動内容: 既設10,000ℓ貯水槽の修復、家畜防止柵設置、生徒・教師・両親向け衛生啓発集会、学校衛生クラブの結成、地域啓発活動、水衛生委員会維持管理など。
- 特長(持続性): 統合的なWASHアプローチを学校近辺の共同体に展開した。自治体、NGO、地域共同体リーダーとの協力を深め、人的資源と専門知識を活用して活動の範囲を広げた。学校首脳メンバーの能力向上、児童による学校クラブを設立して、貯水槽の保護・維持に責任を持たせてプロジェクトによるインパクトの持続性確保を目指している。
- 実施団体: 2019年設立の地域密着型団体。ウガンダ南西部で、困難な状況の子ども、女性、青少年、障がい者へのエンパワーメントを目的に活動中。ムバララ・ロータリークラブと連携してルウェジ川の保護活動を行うなど水資源保全や環境正義実現に熱心に取り組む。2023年には県内5小学校で衛生向上活動を行った。

3. Rwenjeru小学校と地域社会へのWASHイニシアティブ(ウガンダ)

【実施中】



既設雨水貯留槽分解ヒビ割れ穴埋め補修工



雨水貯留槽基礎工



修理した雨水貯留槽の据付



雨水貯留槽ブロック保護工



給水栓基礎工



雨樋と貯留槽の接合



Mr. Nuwagaba Johnbosco (55歳)

消化器の病気による欠席はすでに減ってきました。お陰様で水のことに気をとられず、学習指導に集中できるようになりました。



Ms. Natukunda Mercy (14歳)

もう授業に遅れるとか、長く歩きすぎて疲れなくなりました。いまの水はきれいな味がして、怖がらずに飲めます。



Mr. Akatwijuka Bryson (11歳)

前までは、毎日家から水をもって登校していました。いまは、カバンの中が本だけになって軽くなりました。

【実施後】



校内の新しい給水栓から安全な水汲み



防護柵付き給水栓と生徒たち



SperoとJWFに安全な水アクセスを感謝する男女生徒



Mr. Byamukama Yonah (27歳)

生徒たちが、牛の間で水を汲んでいたのを学校から見て胸が痛んでいました。今では、彼らが学校で安全にしているとわかっているので気持ちが安らぎます。



Mr. Byaruhanga Alexs (46歳)

この水栓は、私たちの学校コミュニティにとっては祝福となっています。みんなで子どもたちの健康のために協力したことで、何が達成できたかを示すものです。